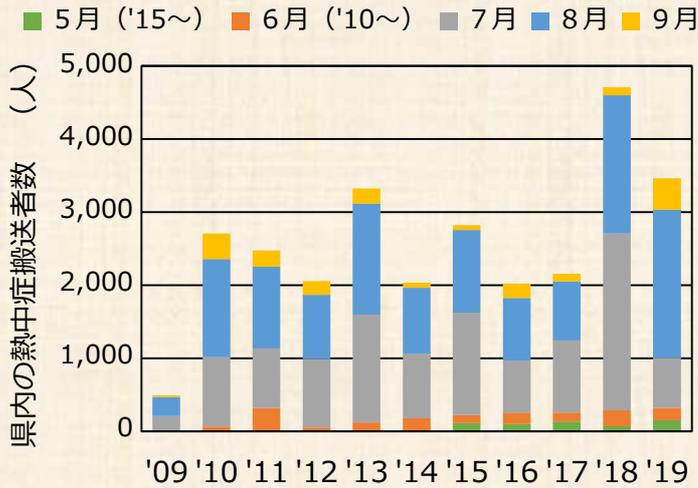


【気候変動の影響】

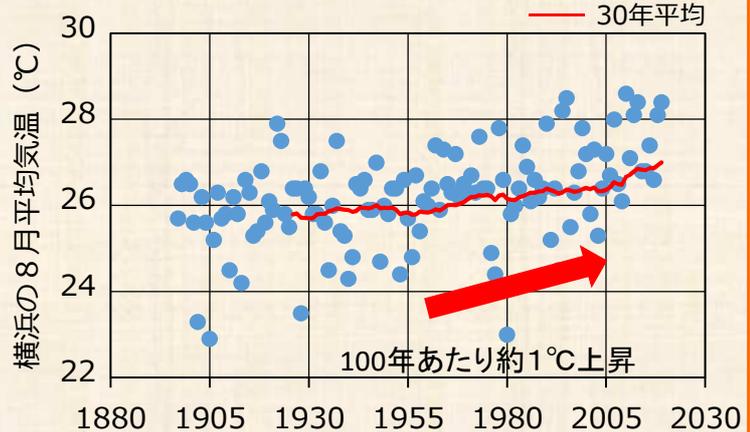


- 近年の猛暑により、県内の熱中症搬送者数は、**2018年に過去最多**の4,710人を記録し、**2019年も高止まり**(3,463人)しています。



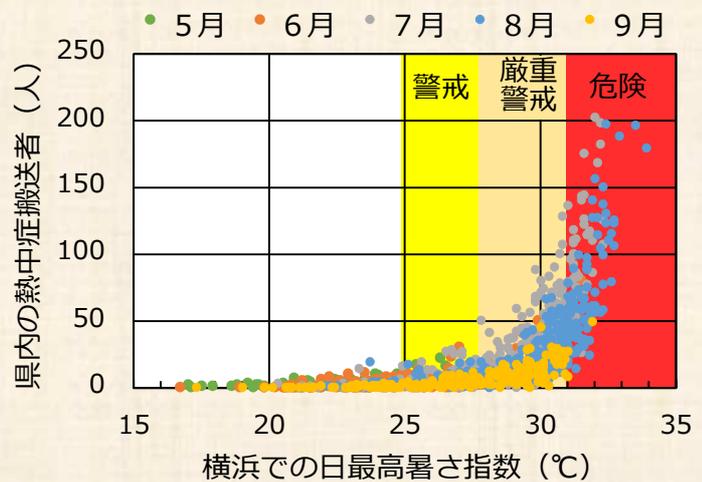
- 気候変動の影響や都市化によるヒートアイランド現象により、横浜地方気象台における**8月の平均気温は、100年あたり約1℃上昇**しており、**今後も上昇が続く**ことが予測されます。
- そのため、**熱中症の搬送者数は、さらに増加**し、21世紀半ばには、**現在の2～3倍に達すると予測**している研究結果※もあります。

※環境研究総合推進費S-8温暖化影響評価・適応政策に関する研究(茨城大、国環研ほか)



【気候変動への適応】

- 熱中症のリスクは、**気温だけでは評価できないため、湿度や日差しの違いも考慮した「暑さ指数」が熱中症予防指標として有効**です。
- 右図のように、熱中症の搬送者数は、**暑さ指数25℃以上で増え始め**、暑さ指数が上がるとともに、**急激に増加**します。
- 環境省熱中症予防情報サイトでは、県内5地点の**暑さ指数の現在値と予測値が配信**されています。



- 2019年の夏、横浜では、暑さ指数31℃以上の**熱中症リスクが「危険」となった日は21日間**もありました。
- 「命の危険がある暑さ」などの気候変動の影響に適応するためには、暑さ指数等の予防情報を参考に、**熱中症リスクの高い時は、外出時間の変更や、冷房を必ず使用する等、これまで以上の注意や行動が必要**となってきます。



神奈川県気候変動適応センターでは、熱中症の発生状況をより詳細に解析し、将来の熱中症リスクの変化や、効果的な適応策の検討などを進めていきます。